



平成 19 年 10 月 26 日

各 位

株式会社アルプス技研
IR・広報室

平成 19 年 12 月期第3四半期業績の概況について

株式会社アルプス技研の平成 19 年 12 月期第3四半期(平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)業績の概況につきまして下記ご説明申し上げます。

【Ⅰ】第3四半期連結業績

(1) 連結業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期	[前 年 同 期 比]
売 上 高	166億9,000万円	[6億3,600万円増、 4.0%増]
営 業 利 益	11億7,100万円	[1億9,500万円増、 20.1%増]
経 常 利 益	11億7,100万円	[2億4,100万円増、 26.0%増]
第3四半期純利益	7億5,200万円	[4億1,200万円増、 121.6%増]

当第3四半期の連結売上高は、技術者派遣事業において前年同期より暦日稼働日数減(△3日)という状況にもかかわらず、前年同期比6億3,600万円増、4.0%増の166億9,000万円となっています。

かかる状況にあつて単価改定などに努力した結果、売上総利益は四半期業績開示以来の最高益を上げ、採用関連費用増等による販管費の増を吸収し、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高水準をキープしております。

(2) 事業のセグメント別売上(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期	[前 年 同 期 比]
アウトソーシングサービス事業	163億100万円	[8億1,900万円増、 5.3%増]
そ の 他 事 業	3億8,800万円	[1億8,300万円減、 32.1%減]

技術者派遣を主体とする「アウトソーシングサービス事業」は、7～9月には稼働時間が減少しましたが、顧客からの引き合いは依然旺盛な状態が継続しており、稼働人数増と単価アップによって、売上高は前年同期比8億1,900万円増、5.3%増の163億100万円になっています。

一方、「その他事業」の売上は、アルプス技研のモノづくり事業縮小等により、前年同期比1億8,300万円減、32.1%減の3億8,800万円になっています。

【Ⅱ】第3四半期個別(アルプス技研)業績

(1) 個別(アルプス技研)業績の主要数値(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期	[前 年 同 期 比]
売 上 高	137億1,300万円	[2億300万円増、 1.5%増]
営 業 利 益	11億900万円	[1億9,600万円増、 21.5%増]
経 常 利 益	11億7,300万円	[2億600万円増、 21.4%増]
第3四半期純利益	6億9,700万円	[2億7,100万円増、 63.7%増]

株式会社 アルプス技研

連結業績同様、稼働時間減少、モノづくり事業の縮小の減収要因はありましたが、単価アップなどの努力によって、採用関連費用増等による販管費増を吸収し、営業利益、経常利益、当期純利益ともに四半期業績開示以来の最高益をあげています。

(2) 個別(アルプス技研)事業のセグメント別売上(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期	[前 年 同 期 比]
アウトソーシングサービス事業	135億1,400万円	[4億400万円増、3.1%増]
そ の 他 事 業	1億9,900万円	[2億円減、50.2%減]

事業のセグメント別売上高は、技術者派遣を主体とした「アウトソーシングサービス事業」売上が予想以上の稼働時間減(なにかんずく7~9月は前年同期比△4H/月)となりましたが、稼働人数増、単価アップによって前年同期比4億400万円増、3.1%増の135億1,400万円となっています。また、「その他事業」売上はモノづくり事業の縮小により、前年同期比2億円減、50.2%減の1億9,900万円となっています。

(3) 売上上位100社による主要業種別売上高構成(総売上高の79.8%)

(金額は百万円未満切捨て、パーセントは小数点第二位四捨五入)

	当 期	前年同期比	売上高構成比	
			当 期	前年同期
自動車(含む部品・ナビ・オーディオ)	31億8,900万円	3.4%増	29.2%	29.5%
精密機器	26億3,100万円	3.4%増	24.0%	23.3%
家電	14億9,700万円	20.6%増	13.7%	11.8%
半導体(含む製造設備)	13億1,500万円	31.6%増	12.0%	9.5%
通信	3億7,800万円	12.0%増	3.5%	3.2%
その他(携帯電話、ソフト開発等)	19億3,800万円	11.0%減	17.6%	22.7%
100社合計	109億4,800万円	4.4%増	100.0%	100.0%

売上高上位100社による業種別では、大型・薄型TV他の新製品開発の家電業界や半導体関連向け売上が、各々20.6%増、31.6%増と大幅な増収となっています。

しかしながら、派遣稼働時間、特に7~9月の稼働時間について見ますと、全般的に前年同期比減少しました。主因は、7~9月の半導体関連における稼働時間が高稼働(193.4H/月)であった前年同期に比べ、△13.6H/月となったこと等によるものです。

(4) 派遣稼働率、派遣稼働時間、派遣単価

	全派遣技術者平均		除く新卒派遣技術者	
	当期	前年同期	当期	前年同期
稼働率	94.3%	94.7%	96.0%	97.3%
稼働時間	176.0H/月	179.3H/月	176.6H/月	180.4H/月
単 価	3,618円/H	3,473円/H	3,641円/H	3,523円/H

当第3四半期は稼働時間減が稼働率低下状況に影響を及ぼしていますが、新卒を含む単価は依然好調な需要を背景に前年同期比4.2%増の3,618円/Hとなっています。

【Ⅲ】今後(平成19年10月1日~12月31日)の業績見通しについて

米国のサブプライムローン問題に端を発した世界経済成長へのマイナス影響、わが国の半導体を中心とした家電業界の再編など、不透明要因が散見されておりますが、顧客からの引き合いの減少など、当社グループに対する影響は現在のところ明確には起きていません。今後とも動向を注視しつつ、変化があった場合には素早い対応をとっていく所存です。

以上の背景を十分に勘案したうえで、平成19年8月9日付で公表いたしました今通期(平成19年1月1日~12月31日)の業績予想は、連結・個別ともに据え置かせていただきます。

以上